

脳血管内治療センター

最先端 低侵襲治療

全身麻酔不要

手首の血管から治療する

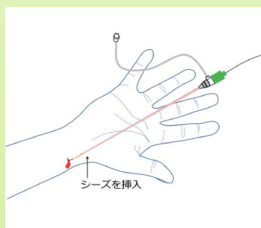
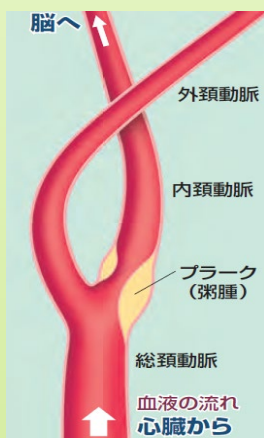
頸動脈ステント留置術



デバイスの進歩により、従来の大腿動脈(足の付け根)からの治療ではなく、**橈骨動脈(手首の血管)**からの治療が可能になりました。

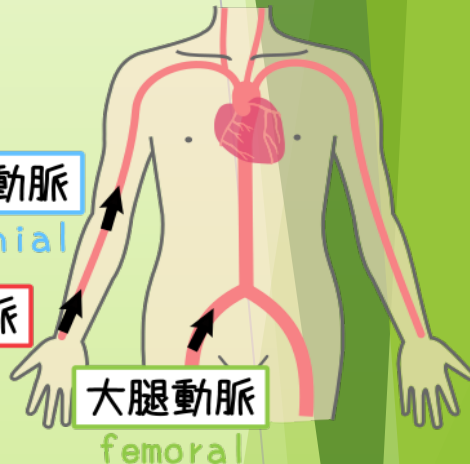
当院では、頸動脈ステント留置術は原則、局所麻酔で手首から治療する方法を第一選択にしています。

頸動脈狭窄症



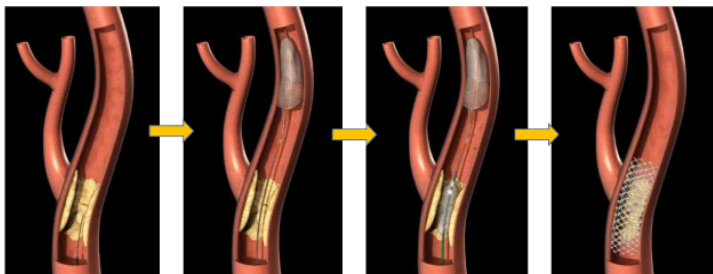
手首からの治療
(経橈骨動脈アプローチ)

上腕動脈
brachial
橈骨動脈
radial



頸動脈ステント留置術

治療方法

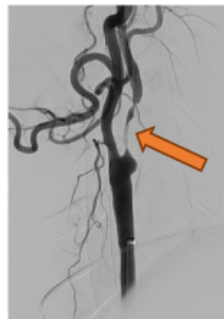


治療前

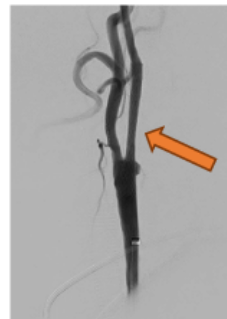
遠位塞栓デバイスを展開

バルーンで血管を拡張

頸動脈ステントを留置
遠位塞栓デバイスを回収



治療前



ステント留置術後

術後から歩行可能、食事可能で安静が不要。治療時間は30分～1時間程度。

全例で可能ではありませんが、安全に施行できる症例に関しては積極的に行っており、患者さんにより負担の少ない治療の実現を目指しています。症例によっては、手術(頸動脈内膜剥離術;CEA)が適した場合もありますので、詳しくは外来で御相談下さい。

脳血管内治療センター
センター長 粕谷泰道